

## 認定方針作成者の令和2年産作付動向等に関する調査結果 (令和元年12月調査)

### 概況

#### 1 令和2年産米の作付見込み

##### (1) 主食用米

コシヒカリ・ゆきん子舞・その他うるち・もち米は増加傾向、こしいぶき・つきあかり・酒米が前年並み、あきだわらが減少傾向となっています。

##### (2) 非主食用米

加工用米・米粉用米・新市場開拓用米は増加傾向、飼料用米は減少傾向、備蓄米は前年並みとなっています。

#### 2 令和元年産米の集荷・販売状況

うるち品種の集荷状況は概ね前年に比べ順調となっているものの、販売は集荷状況に対して遅れている状況。

元年産は、県内の主食用米の作付が前年に比べて2,100ha増加する一方、加工用米等の非主食用米の作付は大幅に減少し、県内実需の需要に十分に答えきれない状況となりました。

今後の販売動向に注視し、令和2年産の主食用米については事前契約により確実な需要を積み上げるとともに、新潟米のブランド力強化・価格の安定化に向け、需要のある加工用米などの非主食用米の取組を推進しましょう。

### 調査概要

- 調査方法：郵送・電子メールにより調査票を送付し回収
- 調査期間：令和元年12月19日(木)～2年1月10日(金)
- 回答状況：165者に送付し、31者(JA16、その他15)が回答

### 調査結果

#### 1 令和2年産米の作付見込み

##### (1) 主食用米

品種	D I	説明
コシヒカリ	55.8	「維持」70%、「大きく増やす」及び「やや増やす」27%、「大きく減らす」3%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向
こしいぶき	50.0	「維持」72%、「やや減らす」16%、「大きく増やす」及び「やや増やす」12%となっており、全体では元年産並みの傾向
ゆきん子舞	54.7	「維持」69%、「大きく増やす」及び「やや増やす」25%、「大きく減らす」6%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向
あきだわら	44.6	「維持」71%、「やや減らす」14%、「大きく減らす」7%、「やや増やす」7%となっており、全体では元年産並み～やや減少の傾向
つきあかり	50.0	「維持」59%、「やや減らす」及び「大きく減らす」23%、「大きく増やす」及び「やや増やす」18%となっており、全体では元年産並みの傾向
その他うるち	60.2	「維持」50%、「大きく増やす」及び「やや増やす」36%、「大きく減らす」14%となっており、全体ではやや増加の傾向
もち米	57.3	「維持」63%、「大きく増やす」及び「やや増やす」33%、「大きく減らす」4%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向
酒米	50.0	「維持」82%、「やや減らす」及び「大きく減らす」12%、「やや増やす」6%となっており、全体では元年産並みの傾向

## (2) 非主食用米

品種	D I	説明
加工用米	57.1	「維持」71%、「大きく増やす」及び「やや増やす」25%、「やや減らす」4%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向
米粉用米	56.7	「維持」80%、「やや増やす」13%、「大きく増やす」7%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向
新市場 開拓用米	56.3	「維持」69%、「大きく増やす」及び「やや増やす」25%、「やや減らす」6%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向
飼料用米	33.3	「維持」58%、「大きく減らす」25%、「やや減らす」17%となっており、全体では減少の傾向
備蓄米	50.0	「維持」81%、「やや増やす」13%、「大きく減らす」6%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向

## 2 令和元年産米の集荷・販売状況

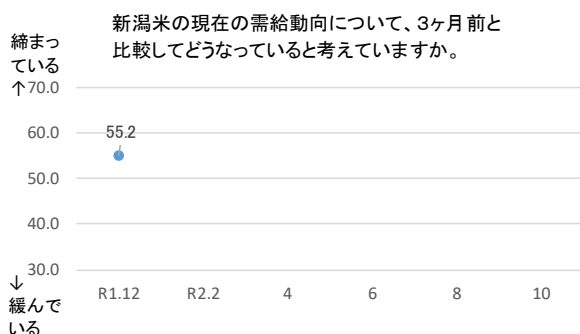
コシヒカリなどうるち品種の集荷状況（D I）は、一部の品種を除き60を超えているのに対し、販売状況（D I）は50台となっており、集荷に対して販売が遅れている状況となっている。

品種	集荷状況 (DI)	販売状況 (DI)
コシヒカリ	61.5	54.2
こしいぶき	62.5	59.3
ゆきん子舞	65.0	55.6
あきだわら	51.7	56.7
つきあかり	66.2	56.9
その他うるち	63.9	56.0
もち米	53.6	58.7
酒造用米	51.5	52.6

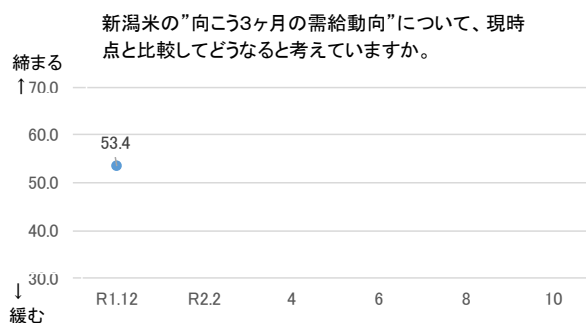
## 3 新潟県産の主食用米の需給動向と米価水準 [今回から新たに追加]

### (1) 主食用米の需給動向

#### ①現状判断D I

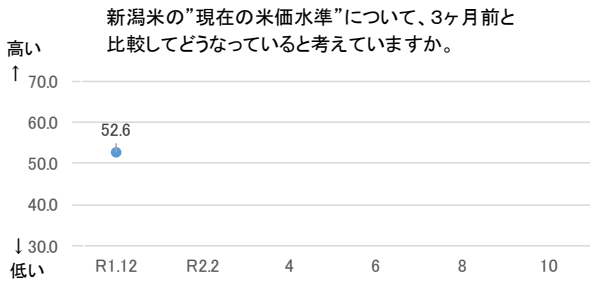


#### ②見通し判断D I（向こう3ヶ月）

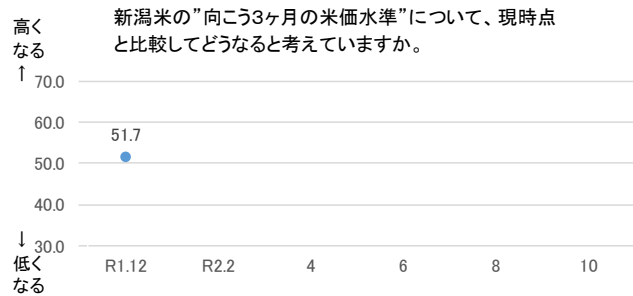


## (2) 主食用米の米価水準

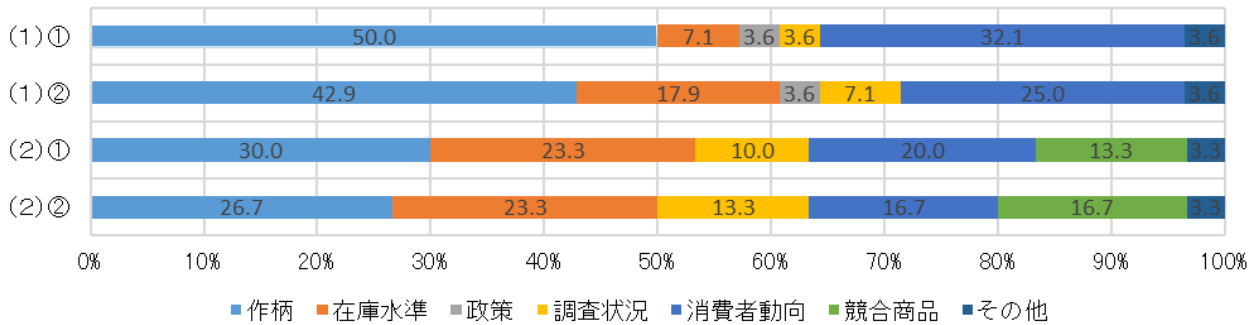
### ①現状判断D I



### ②見通し判断D I (向こう3ヶ月)



## 需給動向・米価水準の判断理由



## ■作付動向等に関する調査における回答の判断基準

作付動向等に関する調査の回答にあたっては、それぞれ次の5段階で判断して選択。

作付見込	大きく増やす	やや増やす	維持	やや減らす	大きく減らす
集荷状況 販売状況	かなり順調	やや順調	維持	やや不調	かなり不調
需給動向	締まる	やや締まる	維持	やや緩む	緩む
米価水準	高い	やや高い	維持	やや低い	低い

### (解説) D I (Diffusion Index) の見方について

- アンケート回答者の判断や方向性を指数化したもの。作付動向について、仮に回答者全員が「維持」を選択した場合は「50」、「大きく増やす」を選択した場合は「100」、「大きく減らす」を選択した場合は「0」となる。
- このため、作付動向については、D Iが「100」に近づくほど「調査対象品種の作付面積を増やす(=調査対象品種の生産量を増やす)」という判断が強く、反対に「0」に近づけば「調査対象品種の作付面積を減らす(=調査対象品種の生産量を減らす)」という判断が強いことを表す。
- 元年産の集荷状況及び販売状況については、D Iが「100」に近づくほど「調査対象品種の集荷(販売)が順調」という判断が強くなり、反対に「0」に近づけば「調査対象品種の集荷(販売)が不調」という判断が強いことを表す。
- 元年産の主食用米の需給動向については、D Iが「100」に近づくほど「締まっている(将来)締まる」という判断が強くなり、反対に「0」に近づけば「緩んでいる/(将来)緩む」という判断が強いことを表す。
- 元年産の主食用米の米価水準については、D Iが「100」に近づくほど「米価水準が高い(高くなる)」という判断が強くなり、反対に「0」に近づけば「米価水準が低い(低くなる)」という判断が強いことを表す。